

寛文前より世にあらはれたればなり、

叡山尺。

この尺長曲尺七寸六分弱傳へて南山法尺といふ、南山は釋道宣をいふ、分寸を刻せざるをみれば、これもまた肘尺のみじかきものなるべし、

〔好古日録〕小尺

一故家傳ル所ノ古尺、以竹造之實ニ千年ノ古色アリト云、近光宿禰嘗テ摸造ス、今ノ小尺即曲尺ニ短キ

二厘弱也、按ニ上文ニ所謂周尺ノ一尺二寸、古尺ノ一尺曲尺ハナル者ト毫忽ノ長短ナシ、

古尺

延享中伏見ニ塾師アリ、田中某ト云、塾徒古銅尺ヲ以書鎮トスル者アリ、其尺和漢辨ズベカラズ、古色蒼然愛スベシ、其家久ク藏ル所ト云、曲尺ヲ以ハカルニ、八寸七分五厘ヲ一尺トス、何等ノ尺ナルコトヲシラズ、後ノ考ヲ俟、

雜載

〔入倫訓蒙圖彙〕五物指師 鯨指は伊勢大坂より出す、竹指、京にてこれをつくる、所々にあり、周尺とて、代々唐の尺を考へ出すなり、

〔東大寺要録〕延曆僧錄文

仁政皇后菩薩諱安宿媛尊號天下應真天皇○天下天平、天皇皇后誤、

出家尼名光明子沙彌

皇后、俗性藤原朝臣氏、父贈一位太政大臣藤原朝臣史氏之女、即勝寶感神聖武皇帝之后也、皇后在室、謬父入市、教諸商人用於稱尺、于時日本未行稱尺、新從大唐得稱尺、所以皇后入市、教人用稱尺、文曰、當助國宣風、權衡稱尺、非久各流天下、後帝納之冊爲后、號天平仁政皇后、

〔本朝度量權衡考〕度按ズルニ、○中 皇后ハ天平寶字四年春秋六十二テ崩シ給フ、聖武皇帝儲貳